

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2025

言語研修について

言語研修はアジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)の研究者養成事業の一環で、アジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的としています。また、開講言語によっては現地調査における言語記述の手法(フィールド・メソッド)を身につけることができます。いずれの言語も日本の専門研究者と母語話者がペアで講師を務める点が特徴です。大学在学学生、大学卒業者または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、どなたでもご応募いただけます。

募集言語について

トク・ピシン、スワヒリ語マクンドウチ方言、ノス・イ語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。※諸事情により、日程・開催時間に変更となる可能性があります。

募集定員について

各言語 約10名 (当研究所で書類審査により選考します。)

募集期間について

募集期間: 2025年5月29日(木)～ 2025年6月19日(木)

6月12日(木)エントリー締切、19日(木)書類アップロード締切。

[主催／企画] 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書または最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込みください。

※申し込みは、Web上でのみ受け付けます。

※当研究所ウェブサイト(<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2025>)のエントリーボタンより、必要事項を入力し、エントリーをしてください。自動返信メールに書類アップロード先のURLが記載されていますので、期日までに必要書類を提出してください。

※申込書に記入いただくEメールアドレス宛に選考結果通知のPDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室
研究協力課共同研究拠点係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610
Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、7月下旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付してください。

受講料等は各言語のページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担をお願いいたします。

授業の実施方法について

原則として対面で行います。ただし、社会情勢の変化などにより、全日程をオンライン授業に切り替える場合があります。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修の一部として担当講師以外の外部講師を招き文化講演を行います。
文化講演は一般向けに公開することがあります。

受講までの流れについて

受講申込



P.1記載の「応募方法について」に従ってお申し込みください。

確認メール送信



書類提出後、確認メールをお送りします。

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には、受講料等の振込先および、初日の集合時間等についても、あわせてご案内いたします。

受講料振込



通知書に記載された期日までに、受講料等をお振込みください。
振込手数料は自己負担となります。

受講料振込確認メール送信



期日までにお振込が確認できない方には、事務局から確認メールをお送りします。

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し、必要に応じて、研修に関するご連絡を差し上げます。

研修開始



受講上の注意について

- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

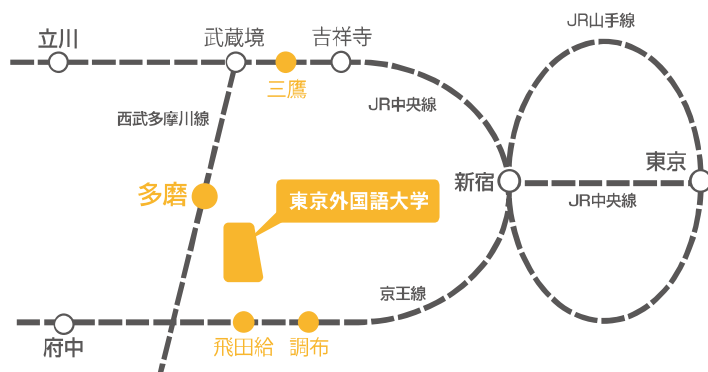
東京会場 [トク・ピシン、スワヒリ語マクドゥウチ方言]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。
※小田急バス時刻表:
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統(多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要20分)。停留所から徒歩2分。
※京王バス時刻表:
<http://www.bus-navi.com/>



※ アジア・アフリカ言語文化研究所は6番の建物です

大阪会場 [ノス・イ語]

大阪大学 箕面キャンパス

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3丁目5-10

※会場の教室は、決まり次第お知らせします。

電車

北大阪急行線 箕面船場阪大前駅下車 徒歩 約3分

阪急バス

- ・小野原東発「呉羽の里行」、「千里中央行」 船場団地下車 徒歩約1分
- ・阪急豊中駅発「千里中央行」 新船場南橋下車 徒歩約7分
- ・阪急石橋北口発「箕面船場阪大前駅行」、「千里中央行」
箕面船場阪大前駅 下車 徒歩約3分



※大阪大学HP (<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/top#8um6f>) より引用

トク・ピシン

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

世界でもほとんど唯一無二の水準の超多民族国家であるパプア・ニューギニアにおいて、トク・ピシンは最も多くの人々が使用する共通語です。トク・ピシン言語共同体の特徴は、何といっても、母語話者を中心とする社会ではないところにあります。英語を語彙供給源とする言語ですから、ある意味ではパプア・ニューギニアにとって外来の言語でもあります。英語とは別の規範(norm)を持つに至った点でも、話者の意識の点でもパプア・ニューギニア独自の言語です。

トク・ピシンは多くの人に通じるだけではありません。ちょっと格式ばったり教養人ぶったりするには英語がいいのですが、それとは対照的に、パプア・ニューギニアの多くの人と親しく交流するのに好適な言語です。また、ソロモン諸島のソロモン・ピジン、バヌアツのビスラマなど兄弟格の言語とは、一定の相互理解が可能で、民際的であるのみならず、国際的な言語でもあります。

一般言語学、社会言語学の教科書ではトク・ピシンがピジン・クレオールの代表格として取り上げられることも多くありますが、一次資料を持つ研究者や話者からの情報発信が反映されないことも多くあります。名の知られた未知の言語といっても、当たらずとも遠からずです。

研修の対象者について

パプア・ニューギニア及び周辺地域の地域研究、言語学(なかでも社会言語学、ピジン・クレオール研究、言語接触研究)に興味のあるすべての学部生・大学院生・研究者が対象です。また、研修は現地調査における言語記述の手法(フィールド・メソッド)も含むので、研究対象言語に関わらず言語の記述的研究を目指すすべての学生がこの研修の対象に含まれます。

研修内容について

トク・ピシンは一見「崩れた英語」にも見えますが、どのように崩しても良いではありません。本研修では正しいトク・ピシン、できることなら恰好いいトク・ピシンの習得を目指します。発音、語彙、文法にわたり基礎を固め、分からない言葉を聞き返したり、意思をはっきり表現したりする練習を通して、環境に飛び込んで独力で道を切り拓く能力を身につけます。

テキストについて

これまでの先行研究及び講師らの共同研究に基づいて作成したテキストを使用します。

研修期間および研修時間について

2025年8月29日(金)～2025年9月19日(金) 75時間(文化講演含む)
午前10時00分 ～ 午後4時30分(土・日・祝は休講)

文化講演について

詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<http://www.aa.tufts.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2025>

受講料について

45,000円(教材費込み)

講師プロフィール

千田 俊太郎(ちだしゅんたらう)

現職: 京都大学大学院文学研究科教授

1974年東京生まれ横浜育ち。京都在住。京都大学文学研究科博士後期課程修了。熊本大学准教授(2011-2013年)、京都大学大学院文学研究科准教授(2013-2021)を経て現職。1997年よりパプア・ニューギニア、シンブール州のドム語を調査・研究。ドム語のほかトク・ピシン、朝鮮語、エスペラントなどの調査・研究に携る。トク・ピシンは第四言語として学習。トク・ピシンに関わる論文に *Kial multas adjektivoj en Esperanto?*, *Esperantologio / Esperanto Studies* 3(11) (2022)、*「計画言語とピジン・クレオール」* *Language and Linguistics in Oceanica* 13 (2021)がある。



Rebecca Maniako(レベッカ・マニアコ)

元学校教員

1972年ブーゲンビル島に生まれ育つ。ポートモレスビー在住。ゴロカ大学及びサザンクロス大学卒業。フリンダース大学大学院修士(特殊教育)。障害児教育の専門家としてインターナショナルスクールで教鞭を取った経験がある。第一言語はバイツィ語(母方の言語)、第二言語は英語、第三言語としてトク・ピシンを獲得。その他父方の言語であるモトゥナ語など、バイツィ語以外の現地語の知識・運用能力をもつ。大西正幸(バイツィ語)、千田俊太郎(トク・ピシン)の言語研究協力者をつとめ、トク・ピシンの言語学的資料をまとめた経験がある。ブーゲンビル島日本人戦没者遺骨収集の協力でも知られる。



スワヒリ語マクンドウチ方言

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

スワヒリ語はバントゥ系言語(ニジェール・コンゴ語族)の一つで、東アフリカの地域共通語として使われていることがよく知られていますが、そのなかには多様なバリエーションが内包されています。例えば、東アフリカの沿岸部や島嶼部には、20前後のスワヒリ語の方言が分布していると言われており、マクンドウチ方言(自称カエ方言)も、そうした方言の一つとなります。

マクンドウチ方言は、ザンジバル(タンザニア連合共和国)、ウングジャ島南東部に位置するマクンドウチ郡(人口約13,000人)で主に話されており、近隣のほかの方言と似た特徴をもっています。その一方で、ウングジャ島都市部の方言や、それをベースに策定された標準スワヒリ語とは、語彙や音韻、文法面で顕著に異なり、言語特徴だけに着目すれば、別の言語とみなすこともできます。

また、マクンドウチ方言をはじめとする東アフリカ沿岸部のスワヒリ語諸方言は、その祖先が9世紀の時点ですでに現在のソマリア南部からモザンビーク北部にあたる地域に分布していたと考えられており、19世紀以降の交易網の拡大やヨーロッパ人による植民地支配のなかで発達した東アフリカ内陸部の諸変種とは異なる歴史的背景をもっているという点も、特筆すべきでしょう。

研修の対象者について

本研修を受講するために必要な条件・知識は特にありません。ただ、スワヒリ語についてすでになんらかの知識を有していると(方言やレベルは問わず)、授業の内容をより深く理解して楽しめるかもしれません。また、東アフリカ沿岸地域の「スワヒリ世界」に対して関心をもつ方の受講も歓迎します。

研修内容について

基本的な文法事項や語彙を習得して、基本的な会話(挨拶など)ができるようになることを目指します。また、その知識を活用して、口承の民話など語りのテキストの読解も行います。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用します。

研修期間および研修時間について

2025年8月25日(月)～2025年9月12日(金) 75時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後4時30分(土・日・祝は休講)

文化講演について

詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2025>

受講料について

45,000円(教材費込み)

講師プロフィール

古本 真(ふるもと まこと)

現職: 帝京科学大学総合教育センター講師

1986年生静岡県出身。京都大学大学院文学研究科博士課程修了(博士:文学)。日本学術振興会海外特別研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員等を経て、現職。2012年からザンジバル(タンザニア連合共和国)で、マクンドゥチ方言をはじめとするスワヒリ語諸方言の現地調査に従事。ザンジバルでは、スワヒリ語諸方言の音声特徴や形態統語特徴の解明を目指した言語学的調査だけでなく、口承の民話などの語りの収集にも精力的に取り組んでいる。現在は、本務校の帝京科学大学の授業に加え、東京外国語大学でスワヒリ語の授業を担当する。



Asha Abdulla Maisara(アシャ・アブドラ・マイサラ)

元学校教員

タンザニア連合共和国ザンジバル南部州マクンドゥチ郡出身。ダルエスサラーム大学(タンザニア)で、スワヒリ語に関する言語学や文学、教育学を学んだのち、ザンジバルの公立中学校でスワヒリ語や英語の教員を務める。また、ザンジバルで教員養成の職に長年従事。文化や風習を学ぶために日本からザンジバルを訪れた大学生の実習に協力した経験もある。



ノス・イ語

》 初学者向け 》 大阪会場 》 日本語での授業

ノス・イ語は中国四川省涼山イ族自治州で話されるチベット・ビルマ諸語ロロ・ビルマ語派ロロ語支に属する言語です。イ族(彝族)という少数民族によって話される言語で、数多くあるイ語の方言のうち、ノス・イ語は最も大きな変種で、約300万人強の話者人口を誇ります。

イ族は中国の少数民族の中でも数少ない独自の文字と宗教文化をもち、古来より歴史書に度々現れる民族で、20世紀まで階層性を持つ社会を有していました。四川省のみならず、貴州省、雲南省、広西チワン族自治区にも分布し、またベトナムやラオスの北部にもわずかながら居住しています。ただ、現在の各地域のイ語の変種は互いに理解できないほど変化しています。

ノス・イ語は日本語と同じSOV[主語-目的語-動詞]の語順をもち、文法面では日本語とよく似た特徴も多数見られます。ただ、発音はかなり異なり、喉を締めて発音する母音や鼻音と他の子音を繋げるような発音もあります。また音の高さで意味を達する声調もあります。これについては発音練習や聞き取り練習が必要な部分です。

独自の文字・イ文字が存在し、宗教文献を記載するために豊富な文字が用意されていましたが、現在の涼山州では「規範彝文」という標準的な文字体系があり、各種刊行物に利用されています。今回の言語研修では参考程度に扱う予定です。

研修の対象者について

大学・大学院等で言語学や外国語を学んだことがある人/学んでいる人、アジアの言語に関心のある一般の方

研修内容について

- [1] ノス・イ語の語彙を正しく発音し、基本的な文法の理解と基礎的な会話ができるようになります。
- [2] ノス・イ語と関連するチベット・ビルマ諸語との関係性や中国西南部の諸言語の問題を理解します。
- [3] ノス・イ語を話すイ族の文化や背景的な知識を理解します。

テキストについて

オリジナルテキストを配布します。

研修期間および研修時間について

2025年8月18日(月)～2025年9月5日(金) 75時間(文化講演含む)
午前9時00分 ～ 午後3時40分(土・日・祝は休講)

文化講演について

詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<http://www.aa.tufts.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2025>

受講料について

45,000円(教材費込み)

講師プロフィール

林 範彦(はやし のりひこ)

現職: 神戸市外国語大学外国語学部教授

京都大学大学院文学研究科言語学専修博士後期課程研究指導認定退学。博士(文学)。2000年ごろより中国雲南省のチベット・ビルマ諸語の一つ・チノ語(基諾語)の現地調査をはじめ、タイ・ラオス・ミャンマーのチベット・ビルマ諸語、タイ・カダイ諸語の言語調査を進めている。特に、ラオスのロロボ語、アカ・ブリ語、タイのセーク語が現在の研究の中心となっている。関連する言語の最近の研究業績として以下がある。

Norihiko Hayashi, A Sketch of the Mammal Terms of Muang Sing Lolopho with Reference to Dialectal Comparison. In Norihiko Hayashi (ed.), *Topics in Middle Mekong Linguistics* 3. pp. 99–125. Kobe: Research Institute for Foreign Studies. (2022)



沈宏(しんこう、シェンホン)

現職: 眉山薬科職業学院教員(助教)

大阪府立大学人間社会システム科学研究科人間社会学専攻博士前期課程修了、神戸市外国語大学外国語学研究科文化交流専攻に在学。修士(言語文化学)。小学校4年目から今まで(高校を除く)ノス彝語を勉強・研究している。現段階では主にノス彝語スザ方言の文法を研究し、スザ方言と他の方言との対象研究も開始している。今後はノス彝語と彝語の他の方言やチベット・ビルマ系の他の言語との対照研究および漢語西南官話の研究へも立ち込む予定である。関連する言語の最近の研究業績として以下がある。(1) *ICU Working Papers in Linguistics (ICUWPL): ICU Language Database Series 5: Nuosu Yi Digital Archive*. vol.19. (2022, with Seunghun J. Lee) (2) 「ノス彝語の形容詞における比較表現について」『神戸市外国語大学研究科論集』第26号, pp.97–111. (2023) (3) 「ノス彝語の指示詞について」『神戸市外国語大学研究科論集』第27号, pp.77–100.(2024) (4) Tone Sandhi in Nuosu Yi at the interface: phonological evidence for morphological structures. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area*, 47(1): 118–139. (2024, with Seunghun J. Lee). (5) 《诺苏彝语金河话中的集体代词》(ノス彝語金河下位方言における集合代名詞)《民族语文》第5期, pp.117–129.

